

令和3年度 十勝農試定期作況報告 秋まき小麦

月	作況	事由
令和2年 10月20日	やや良	播種期、出芽期はともに平年より3日遅かった。草丈は平年よりやや短く、葉数は平年並で、茎数は多い。 以上のことから、現在の作況はやや良である。
令和3年 5月20日	平年並	根雪始は平年より37日遅く、根雪終は平年より8日早いため、積雪期間は45日短かった。雪腐病の発生はわずかで、越冬状況は良好であった。起生期は平年より4日早く、起生期の茎数は平年よりやや多かった。4月以降の天候は概ね順調に推移した。平年に比べて草丈はやや長く、茎数はやや少ない。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
6月20日	やや良	5月下旬から6月中旬までの気温は高く、降水量および日照時間は平年並であった。出穂期は平年より2日遅かった。平年に比べて草丈は長く、茎数は多い。 以上のことから、現在の作況はやや良である。
7月20日	やや良	6月下旬以降の少雨と、7月中旬の高温の影響により、成熟期は平年より5日早かった。稈長は平年より長く、穂長は平年並、穂数は平年より多かった。 以上のことから、現在の作況はやや良である。
8月20日	良	生育期間を通じて、概ね日照時間が平年より長かったことから、穂数が平年より多く、子実重は平年比138%と多収であった。リットル重および千粒重は平年よりやや小さかったものの、2.2mm篩上率は平年並であった。 以上のことから、現在の作況は良である。
11月20日	良	播種期は平年より3日遅かった。根雪始は平年より37日遅く、根雪終は平年より8日早いため、積雪期間は45日短かった。このため雪腐病の発生はわずかで、越冬状況は良好であった。起生期は平年より4日早く、起生期の茎数は平年よりやや多かった。出穂期は平年より2日遅かった。6月下旬以降の少雨と、7月中旬の高温の影響により、成熟期は平年より5日早かった。生育期間を通じて概ね日照時間が平年より長かったことから、稈長は平年より長く、穂長は平年並、穂数は平年より多かった。リットル重および千粒重は平年よりやや小さかったものの、2.2mm篩上率は平年並で、子実重は平年比138%と多収であった。検査等級は平年並の2等上であった。 以上のことから、本年の作況は良である。

生育データ

品種名	きたほなみ			
	項目/年次	本年	平年	比較
播種期(月日)		9.24	9.21	3
出芽期(月日)		10.1	9.28	3
起生期(月日)		3.30	4.3	△ 4
出穂期(月日)		6.4	6.2	2
成熟期(月日)		7.19	7.24	△ 5
葉数(枚)	10月20日	3.2	3.4	△ 0.2
	11月15日	5.4	5.5	△ 0.1
草丈(cm)	10月20日	18.6	20.2	△ 1.6
	5月20日	53.5	47.7	5.8
	6月20日	95.2	84.5	10.7
茎数(本/m ²)	10月20日	562	496	66
	11月15日	1,101	1,285	△ 184
	起生期	1,787	1,678	109
	5月20日	1,200	1,375	△ 175
	6月20日	881	660	221
成熟期	稈長(cm)	85.6	76.9	8.7
	穂長(cm)	8.5	8.6	△ 0.1
	穂数(本/m ²)	769	651	118
子実重(kg/10a)	975	707	268	
同上対平年比(%)	138	100	38	
リットル重(g)	812	835	△ 23	
2.2mm篩上率(%)	96.6	95.0	1.6	
千粒重(g)	39.8	41.5	△ 1.7	
検査等級	2上	2上	-	

備考1) 平年値は、前7か年中、平成29年収穫(豊作)、28年収穫(凶作)を除く5年平均。年次は収穫年。

備考2) △は平年より早、少、短を表す。

耕種概要

一区面積(m ²)	区制	前作物	畦幅(cm)	播種日(月日)	播種量(粒/m ²)
9.6	4	緑肥 トウモロコシ	30	9.24	255

肥料名	施用量(kg/10a)	要素量(kg/10a)				備考
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	
S502	80	4.0	16.0	9.6	4.0	基肥
硫安	38	8.0				追肥(4/19)
硫安	19	4.0				追肥(5/25)